

第14回GMOフリーゾーン全国交流集会 in 成田

守ろう！子どもたちの未来を！



～ 成田から世界に発信 NON-GMO ～ 2019年3月2・3日 千葉県成田市

グリーンコープは、予防原則の立場から一貫して遺伝子組み換え作物（以下、GMO）に反対し、有機農業や生物多様性を守るために、GMOを栽培しない地域を広げるGMOフリーゾーン運動に取り組んでいます。

GMOフリーゾーン全国交流集会は、この運動をすすめる全国の仲間が集まり毎年開催されています。14回目となる今年は、3月2・3日に千葉県成田市で開催され、グリーンコープからは19人が参加しました。そのようすを報告します。

集会では、新しい遺伝子操作技術であるゲノム編集とその問題点について、「遺伝子組み換え食品 いらぬ！キャンペーン」代表の天笠啓祐さんによる基調講演がありました。

地域からの報告では、集会の実行委員長より、1960年代に成田に新空港が建設されることになったことがきっかけで、自身の父親が有機農業を始めたことや、空港建設反対運動と並行して成田各地に有機農業が広がっていったことについて話

がありました。また、「食は命」を基本として成田で有機農業を営んでいる生産者からの報告もありました。

生命あふれる食べものを守ろう！ グリーンコープ生協みやぎき理事長 鈴江 信子さん



2018年度の自生GMナタネ汚染調査では、271カ所の内、25検体から陽性反応が出ました。

各単協では、行政に要望書を提出したり、協力を得るため企業を訪問しています。県や市町村の議員や職員が調査に同行さ

れた単協もあります。今後も行政などと協力しながら監視活動が続けていきます。また、グリーンコープ商品に使う甘味料について、子どものおやつから順次non-GMOに切り替えをすすめています。



の安心・安全を求める市民の願いは世界共通のものであるということ、世界中に仲間がいることを実感しました。

基調講演

ゲノム編集食品 「私たちはモルモット？」

講師 遺伝子組み換え食品いらぬ！キャンペーン代表 天笠 啓祐さん

遺伝子組み換えに代わるゲノム編集技術

日本では、大豆・トウモロコシ・ナタネ・綿の4作物についてGMOの輸入が20年前に認められているが、以後それ以外が増えはておらず、世界的にもGMOの栽培国は増えていない。特にGMの稲や小麦の開発が頓挫したことが大きく影響し、開発企業としては失敗の20年間と位置づけている。

ゲノム編集技術の問題点

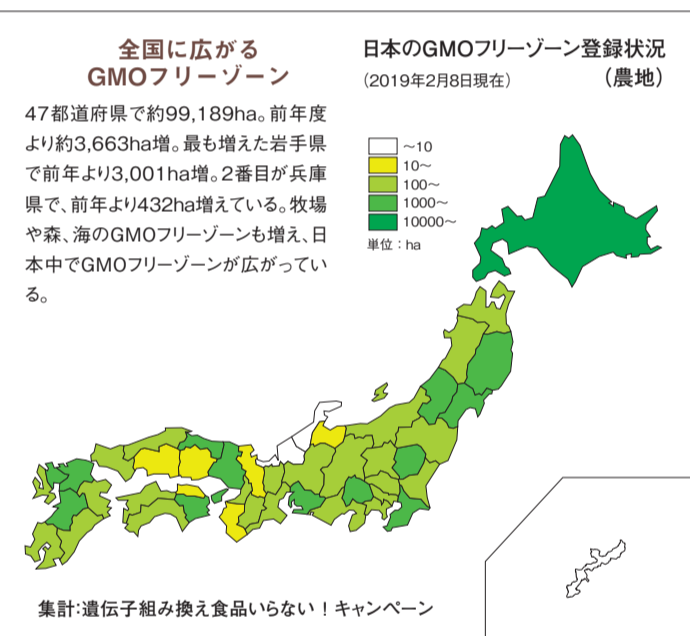
私たちが人間を含む生物の身体は本当によくできており、40億年という長い年月の間でつくり上げられてきた。どの生物にも要らない遺伝子などなく、遺伝子を壊すということは、生命をもたせているとしか思えない。

安全審査さえされないゲノム編集技術

昨年、日本政府はゲノム編集技術推進の方針を出し、その結果、ゲノム編集技術を用いたほとんどの研究開発は、環境への影響という面でも食品としての安全性という面でも、事実上、規制を免れて安全審査もされないことになった。

さまざまな遺伝子を壊す「オフターゲット」や、ゲノム編集した細胞としていない細胞が入り乱れる「モザイク」という問題は避けられない。発がん性が増すという研究結果も報告されている。

安全審査さえされないゲノム編集技術



グリーンコープ生協くまもと 県北地域理事長 中村 千暁さん

グリーンコープの活動を始めて16年。活動を続ける中で、普通の主婦では経験できないことも、たくさん経験させてもらった。たくさんのかげがえのない出会いの中で、一番心に残っているのは、組合員ツアーで訪問させてもらったパプアの村の人々が語っていた「ここでは心を病む人も、自殺する人もいません」の言葉。さだまさしの風立つライオン歌詞「やはり僕たちの国は 残念だけれど 何か大切なところで道を間違えたようですね」がすぐに浮かびました。困っている人がいれば助け合うことが自然に出来る人達との出会いにとっても大切なものを教えられた。

国をつくるのも、やはり私たち一人ひとりである。どんなことも当たり前ではないことに感謝をしながら、これからも誰かの役に立つ私であり続けたいと思う。